

人口減少下での活力ある地域社会と二層の広域圏形成に資する
国土基盤の現状と課題（論点）

< 主な資料のポイント >

- 1．二層の広域圏形成における「地域ブロック」と「生活圏域」
- 2．地域ブロックに関するモビリティ
- 3．生活圏域に関するモビリティ
- 4．連携が困難な地域における対応

- ・全国の中核・中核都市圏の人口増加率は全国平均を上回っており、地域ブロックにおける中心的な都市の形成が図られつつある。一方、都市圏から離れた地域の人口減少が進んでいる。
- ・地域ブロックと海外地域、地域ブロック間のつながりは徐々にではあるが増大しているが、結びつきは十分ではない。
- ・地域ブロック内の中心的都市、共用施設へのアクセスの劣る地域が存在している。
- ・単独市町村で受けられる生活関連サービスの種類は限られているが、1時間圏域では、より多様なサービスを受けることができる。
- ・1時間圏域人口が30万人に満たない地域があり、今後の人口減少に伴い、当該地域は更に拡大する。
- ・生活圏域として必要不可欠な3次救急施設等共用施設へのアクセスが劣る地域が存在する
- ・生活圏域内のモビリティについて、交通渋滞、大気汚染、公共交通サービスレベル等都市規模別に様々な課題が存在する。
- ・広域的な連携が困難な地域においては、自治体による公共交通運営や情報通信を活用した医療・教育施策などの取り組みが見られる。

< 主な論点 >

2層の広域圏を支える交流基盤はどうあるべきか

- ・地域ブロック間、地域ブロック内の交流を支える基盤のあり方
- ・地域ブロックとしてのまとまりを高める施策は何か
- ・生活圏内のモビリティ確保における現状の課題と解決方策
- ・広域的な連携が困難な地域の交流を支える基盤のあり方

地域の自立・安定小委員会における主要論点(案)

今後、我が国は人口減少、少子・高齢化の急速な進行が見込まれるところであり、特に大幅な人口減少等が見込まれる地域では、地域社会そのものの存続が困難となり、国土保全にも支障を来すことが憂慮される。こうしたなかで、地域の広域的な連携等により、人々の暮らしに対する満足感を高めるとともに自立・安定した地域社会を形成することが重要であり、こうした観点から、以下の論点を中心に国土の現状と課題について検討する。

1. 現状と展望に関する論点

(1) 人口減少下の人口分布の現状と展望(全国からみた視点)

今後の人口減少により国土全体の人口分布はどうか。また高齢化はどの程度進展し、その分布はどうか。

<人口移動、集中と分散、低密度・無居住地域の拡大等>

地方圏における都市圏の人口分布はどうか。

<中枢・中核都市圏・中小都市圏の盛衰等>

大都市圏における人口分布はどうか。(東京圏への人口集中をどうみるか。)

<転入・転出、若年層の人口移動、都心回帰、過密の状況等>

(2) 成熟する経済社会のトレンド(全国からみた視点)

今後の人口減少下における成長トレンドと世界における経済的地位はどうか。

<労働力人口・生産性、中国の台頭等>

地域経済の自立性をどうみるか。また地域間格差の現状と将来をどうみるか。

<経済構造、地方財政、社会資本、人的資源等>

経済社会の成熟化によりライフスタイルはどう変化するか。

<国民意識、生活時間、社会参加等>

(3) 地域社会の現状と展望(地域からみた視点)

都市を中心とした地域社会の状況をどうみるか。

<都市構造、地域資源、地域づくりの新しい取り組み等>

地域産業の状況をどうみるか。

<産業構造、雇用・就業、企業立地・開廃、産業クラスター、アジアとの関係等>

2. 基本方向と課題についての論点

(1) 「21世紀の国土のグランドデザイン」戦略の点検

「大都市のリノベーション」の進捗状況はどうなっているか。

「地域連携軸の展開」の進捗状況はどうなっているか。

(2) 二層の「広域圏」

二層の「広域圏」をどう位置付けるか。

<基本政策部会の考え方、過去の全総との相違点等>

二層の「広域圏」でみた諸活動の状況はどうなっているか。

<「生活圏域」の生活関連サービスの充足状況、「地域ブロック」の諸資源・機能の状況等>

二層の「広域圏」をどう展開させるか。

<モビリティの向上と広域的な対応、都市・産業集積、機能分担と連携等>

(3) 個別課題

「ほどよいまち」づくりをどう形成するか。

<地域資源の活用、住民参加、美しさ、地域間のネットワーク、コンパクト化等>

都市・産業集積の拠点をどう形成するか。

<都市機能集積・産業クラスター形成支援等>